

(技術名) パインアップル「沖農P17」の八重山地域における適切な花芽誘導処理時期							
(要約) 八重山地域における「沖農P17」の露地栽培では、5月下旬から6月中旬および9月中旬から11月中旬に花芽誘導処理することで、良食味で障害の少ない高品質果実が得られる。							
農業研究センター石垣支所					連絡先	0980-82-4067	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	パインアップル	分類	普及
普及対象地域		八重山地域					

[背景・ねらい]

生食用パインアップル「沖農 P17」(サンドルチェ[®])は、他の生食用品種と比べ、自然出蕾で結実する自然夏実の糖酸比が高く、果肉内部の一部が腐敗する小果腐敗病や果皮が褐変する軟腐症などの果実障害も発生しにくい特徴を持つ。一方、人為的な花芽誘導処理(以下、「処理」という)により結実させた際の果実特性や収穫時期が明らかにされておらず、このことが生産組合等の出荷計画を立てる際の課題となっている。そこで、本研究では、八重山地域で3月から11月にかけて処理を行い、良食味果実(糖酸比18以上を良食味の目安とする)が収穫でき、果実障害の発生が少ない処理時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 5月下旬から6月中旬および9月中旬から11月中旬の処理では、糖酸比が18以上となり、小果腐敗病や軟腐症の発生率も低く、処理時期として適している(図1)。
2. 7月中下旬から9月上旬の処理では、糖酸比が18未満となる(図1)。
3. 3月下旬から5月中旬の処理では、小果腐敗病の発生率が高く推移する(図1)。
4. 6月下旬から8月中下旬の処理では、軟腐症の発生率が高く推移する(図1)。
5. 処理時期として適した5月下旬から6月中旬および9月中旬から11月中旬に処理した際の平均収穫日は、10月下旬から12月上旬および4月中旬から7月中旬までの期間となる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 生産組合や生産農家が、「沖農 P17」における処理時期の検討や収穫時期を予測する際の参考資料として活用する。
2. 供試株は、エテホン1,000倍希釈液に重量比で3%の尿素を加えた溶液30mLを葉芯へ灌注することで花芽誘導した。また、3月から8月までの処理には処理前年の3月から4月に植付けた春植え株を、9月から11月の処理には処理前年の8月に植付けた夏植え株を供試した。自然夏実については、収穫前々年の8月に植付けた夏植え株から収穫した。
なお、各処理時期の供試果実数は38~240果、供試果実の冠芽込み果実重の平均は932g~1,244gであり、サンドルチェ[®]の商標使用基準である冠芽込み果実重800gを満たした。
3. 本技術は、農業研究センター石垣支所において、2016年9月から2022年12月にかけて健全株から収穫した果実の分析結果を取りまとめたものである。試験期間中の気象条件と異なる環境で果実が成熟した際は、収穫時期や果実品質が本研究の結果と異なる可能性があることに留意する。

[具体的データ]

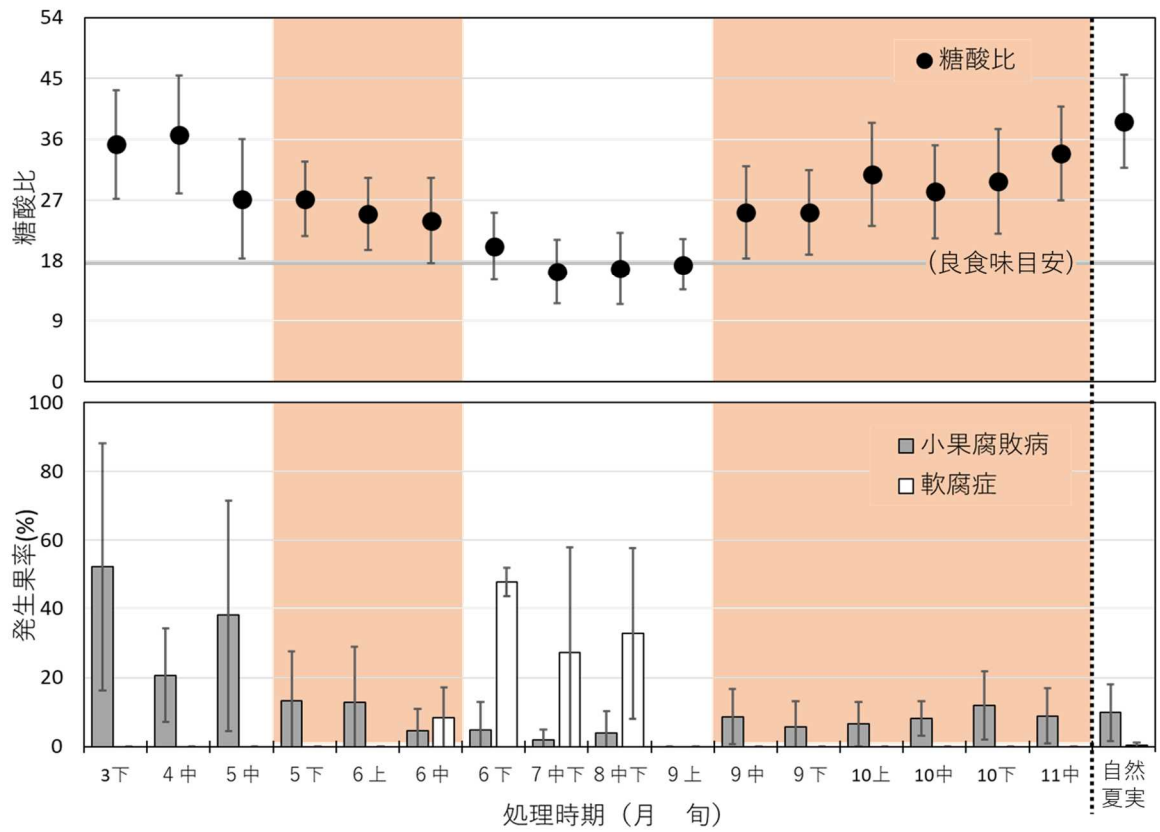


図 1 花芽誘導処理時期別の糖酸比および小果腐敗病ならびに軟腐症の発生果率

注) 糖酸比の値は 2016 年から 2022 年に収穫された全果実の平均値および標準偏差を示す。また、小果腐敗病および軟腐症の発生果率は各調査年における発生率の平均値および標準偏差を示す。処理時期の符号は花芽誘導処理を行った月と旬を示す。また、糖酸比が 18 以上で、果実障害の発生も少ない花芽誘導処理時期を着色して示す。

花芽誘導 処理時期	平均収穫日								花芽誘導処理 から収穫までの日数
	10月	11月	12月	...	4月	5月	6月	7月	
5月 下旬		↔							156.9 ± 5.1
6月 上旬		↔							160.3 ± 4.2
6月 中旬		↔	↔						163.6 ± 4.3
9月 中旬					↔				221.7 ± 12.8
上旬					↔	↔			224.7 ± 15.2
10月 中旬						↔	↔		227.2 ± 16.2
下旬							↔		226.4 ± 9.4
11月 中旬								↔	230.6 ± 9.6
自然夏実								↔	-

図 2 花芽誘導処理時期別の平均収穫日と花芽誘導処理時期

注) 図中の矢印は、2016 年から 2022 年までの各調査年における各花芽誘導処理時期の平均収穫日の範囲を示す。また、花芽誘導処理から収穫までの日数は平均値±標準偏差を示す。

[その他]

課題 ID : 2017 農 001

研究課題名 : 八重山地域における高品質な「沖農 P17」の栽培技術開発

予算区分 : 県単 (いっぺーまーさんパインアップル強化事業)

研究期間 (事業全体の期間) : 2016~2022 年度 (2017~2021 年度)

研究担当者 : 與那覇至、武末翔馬、仲村昌剛、東嘉弥真勇人、宮里進

発表論文等 : なし